

PASSION
FOR THE
BEST

ダイワのグローバル・アウトルック ー マーケット天気図 ー

2012年1月

大和証券

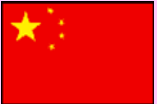
Daiwa Securities

今月のポイント・各国マーケットの主なポイント

今月のポイント

- ① 追加金融緩和の余地を残すECB。欧州債務危機の打開に向けて更なる対策を打ち出すかが注目されよう
- ② 12年は「政治の年」。米仏大統領選挙などが、株式・通貨市場に影響を与える可能性があるろう
- ③ 中国の経済政策はインフレ抑制から成長促進へシフト。新興国・資源国では金融緩和の動きが広まる
- ④ 米景気の回復は継続。これを手掛かりに米短期金利が上昇すれば、米ドル円は円安・ドル高基調が強まろう
- ⑤ 来期業績の改善期待を織り込むことで、日本株の上昇機運は高まろう。PERの水準切り上げにも期待したい

各国マーケット 主なポイント 株式市場

- | | | |
|--------|--|--|
| ① 日本 |  | 今回(12/30): 現状  先行き  (前回(12/15): 現状  先行き )
～来期業績への期待が高まるにつれて、日本株を再評価する動きが広がろう～ |
| ② 中国 |  | 今回(12/30): 現状  先行き  (前回(12/15): 現状  先行き )
～政府は経済政策を成長促進へシフト。金融・財政面での経済対策に期待が高まる～ |
| ③ ブラジル |  | 今回(12/30): 現状  先行き  (前回(12/15): 現状  先行き )
～インフレ率の鈍化傾向が続く。追加金融緩和への期待が株価を押し上げよう～ |

為替市場

- | | | |
|----------|---|---|
| ① カナダ |  | 今回(12/30): 現状  先行き  (前回(12/15): 現状  先行き )
～隣国の米国経済の不透明感が緩和していることはカナダ経済のプラス～ |
| ② 豪州 |  | 今回(12/30): 現状  先行き  (前回(12/15): 現状  先行き )
～リスク選好局面で最も上昇し易い通貨の1つとして注目～ |
| ③ インドネシア |  | 今回(12/30): 現状  先行き  (前回(12/15): 現状  先行き )
～インフレが抑制傾向にある中、堅調な経済成長が持続している～ |

マーケット天気図(国別評価、次ページ)の見方

① 国旗・国名

* 背景の色はグループ分け

青(グループA): 先進国

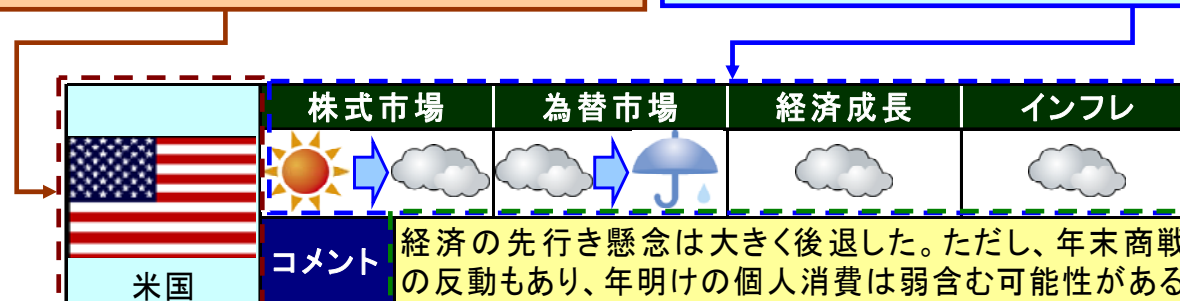
赤(グループB): 日本を除くアジア、新興国を表している

② 現状判断および見通し

各項目共に左側の天気が現状判断、右側が先行き判断を示している。

(左右同判断の場合は1つマークで表している)

* 同項目の詳細については下段を参照

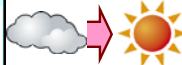


③ コメント:

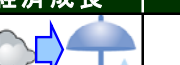
各マーケットの注目ポイントを一言コメントで表記

	株式市場、為替市場		経済成長		インフレ	
	現状判断	先行き判断	現状判断	先行き判断	現状判断	先行き判断
判断項目	それぞれのグループ(A、B)における株価、為替(対円)の「直近3ヵ月間」の相対パフォーマンス	それぞれのグループ(A、B)における株価、為替(対円)の「6ヵ月先」の相対パフォーマンス	「現状」の経済成長率と「過去」のトレンドの比較	「1年先」の予想経済成長率と「現状」の経済成長率の比較	「現状」のインフレ率と「過去」のトレンドの比較	「1年先」の予想インフレ率と「現状」のインフレ率との比較
	アウトパフォーム (為替は円安)	アウトパフォーム (為替は円安)	高成長	加速 (高水準)	インフレ率 下ブレ	インフレ率改善 (低水準)
	ニュートラル	ニュートラル	巡航速度	巡航速度	過去の トレンド並み	過去の トレンド並み
	アンダーパフォーム (為替は円高)	アンダーパフォーム (為替は円高)	低成長	成長鈍化 (低水準)	インフレ率 上ブレ	インフレ率加速 (高水準)

マーケット天気図①(国別評価)

	株式市場	為替市場	経済成長	インフレ
		-		
日本	コメント PBRや配当利回りから日本株の割安感強い。企業業績に対する見方が強まれば、PERの水準も切り上がろう			

	株式市場	為替市場	経済成長	インフレ
				
米国	コメント 経済の先行き懸念は大きく後退した。ただし、年末商戦の反動もあり、年明けの個人消費は弱含む可能性もある			

	株式市場	為替市場	経済成長	インフレ
				
ユーロ圏	コメント 債務問題の打開に向けて、市場は追加金融緩和(量的緩和策)などECBの役割拡大に対して期待を高めている			

	株式市場	為替市場	経済成長	インフレ
				
英国	コメント 失業率が上昇傾向にあることなど、景気の不透明感は強い。ただ、株価は追加金融緩和への期待が下支え			

	株式市場	為替市場	経済成長	インフレ
				
カナダ	コメント 米景気の不透明感が緩和していることはカナダ経済にプラス。過度に輸出依存していない経済も評価したい			

	株式市場	為替市場	経済成長	インフレ
				
豪州	コメント 一部セクターで停滞感が見られる一方、金融緩和による景気下支え期待は継続。資源国通貨としての魅力も健在			

	株式市場	為替市場	経済成長	インフレ
				
NZ	コメント NZ大地震からの復興が継続。ただし、世界景気の先行き不透明感が強まる中、利上げは当面、見送りの公算			

	株式市場	為替市場	経済成長	インフレ
				
ブラジル	コメント 金融・財政政策による景気下支えが続く見通し。株式への金融取引税0%への引き下げは、市場の下支え要因			

	株式市場	為替市場	経済成長	インフレ
				
メキシコ	コメント 足元の経済動向は主要国と比較してしっかりしている。米景気の不透明感緩和は同国経済にとってプラスとなる			

	株式市場	為替市場	経済成長	インフレ
				
南アフリカ	コメント 大幅下落したランドは反発を想定。ただ、輸出を通じて世界景気(特に欧州)の影響を受け易く過信は禁物			

	株式市場	為替市場	経済成長	インフレ
				
トルコ	コメント 食品価格高騰を主因にインフレ率が大幅加速。依然インフレ動向に予断を許さず、株・通貨共に不安定な展開か			

	株式市場	為替市場	経済成長	インフレ
				
中国	コメント 11月末に3年ぶりとなる預金準備率の引き下げを発表。徐々に金融緩和と財政出動への期待が高まろう			

マーケット天気図②(国別評価)

	株式市場	為替市場	経済成長	インフレ
				
インド	コメント 2010年3月以降13回利上げを実施してきたが、12月に金利据え置きを決定。成長重視の政策転換へ期待高まる			

	株式市場	為替市場	経済成長	インフレ
				
フィリピン	コメント 7-9月期GDP成長率はやや伸び悩み。実質金利はプラスであり、経済状況次第で金融緩和に踏み切る可能性も			

	株式市場	為替市場	経済成長	インフレ
				
ロシア	コメント WTO(世界貿易機関)への加盟は評価されるも、12月に実施された下院選挙を巡り国内政治状況が不透明に			

	株式市場	為替市場	経済成長	インフレ
				
マレーシア	コメント 輸出依存度が高く、世界経済の影響を受け易い。実質金利はマイナスであり、景気刺激の余地は限定的			

	株式市場	為替市場	経済成長	インフレ
				
韓国	コメント 北朝鮮情勢は暫らく静観。景気は減速気味に推移しており、次第に政策支援への期待が高まろう			

	株式市場	為替市場	経済成長	インフレ
				
タイ	コメント タイの洪水による復興に関心集まる。金融財政面での景気刺激策への期待感が高まる			

	株式市場	為替市場	経済成長	インフレ
				
台湾	コメント 世界的なハイテク需要に底打ちの兆しが出てきた模様。株価は目先、買戻し先行も、本格反発は時期尚早か			

	株式市場	為替市場	経済成長	インフレ
				
シンガポール	コメント 中銀は国内経済に配慮した金融政策へ転換。貿易依存度は極めて高く、世界経済の影響を受け易い点は注意			

	株式市場	為替市場	経済成長	インフレ
				
インドネシア	コメント インフレが落ち着くなか経済は高成長を維持しており、相対的に株式市場は良好なパフォーマンスを想定			

	株式市場	為替市場	経済成長	インフレ
				
ベトナム	コメント 高インフレが続く中、実質ベースで見た内需は弱含みの可能性。通貨・株式ともに不安定な展開が続こう			

今月の注目ポイント①

- 2012年は「政治の年」と言われるほど、世界的に政治イベントが多い。米国では大統領選挙の実施を控え、中国でも政治指導者の交代が行われる。また、ユーロ圏ではフランス大統領選挙が行われる。これら以外にも、世界の金融市場を混乱させたギリシャや、スロバキアなどでも総選挙が実施される見通し。こうした選挙を通じて打ち出される経済政策の方針などに注目が集まろう。

2012年の世界の主要政治イベント

1月	(22日)フィンランド大統領選挙 (下旬)オバマ大統領一般教書演説 (30日)EU首脳会議 (月内)米韓FTA発効?	7月	(1日)メキシコ大統領選挙 (27日)ロンドン五輪(～8月12日)
2月	(19日)ギリシャ総選挙?	8月	(27日)米大統領選挙で共和党大会(～30日)
3月	(1日)EU首脳会議(～2日) (4日)ロシア大統領選挙 (6日)米大統領選挙の予備選挙「スーパー・チューズデー」 (10日)スロバキア総選挙	9月	(3日)米大統領選挙で民主党大会(～6日) (8日)APEC首脳会議(ロシア～9日) (秋頃)中国共産党第18回全国代表会議
4月	(22日)フランス大統領選挙第1回投票(5/6決選投票) (月内)韓国総選挙	10月	(3・16・22日)米大統領選挙で民主・共和両党候補の討論会 (7日)ブラジル統一地方選挙 (7日)ベネズエラ大統領選挙 (18日)EU首脳会議(～19日)
5月	(25日)EU首脳会議 (月内)アイルランド議会選挙 (月内)主要国(G8)首脳会議(サミット)(米シカゴ)	11月	(5日)アジア欧州会議(ASEM)首脳会議(ラオス～6日) (6日)米大統領選挙・議会選挙 (22日)米国株式市場休場(感謝祭) (月内)G20首脳会議(メキシコ)
6月	(10・17日)フランス国民議会(下院)総選挙 (18日)G20首脳会議(サミット)(メキシコ～19日) (28日)EU首脳会議(～29日)	12月	(13日)EU首脳会議(～14日) (月内)韓国大統領選挙

(注)2011年12月時点の情報に基づき作成 (出所)各種資料より大和証券作成

今月の注目ポイント②

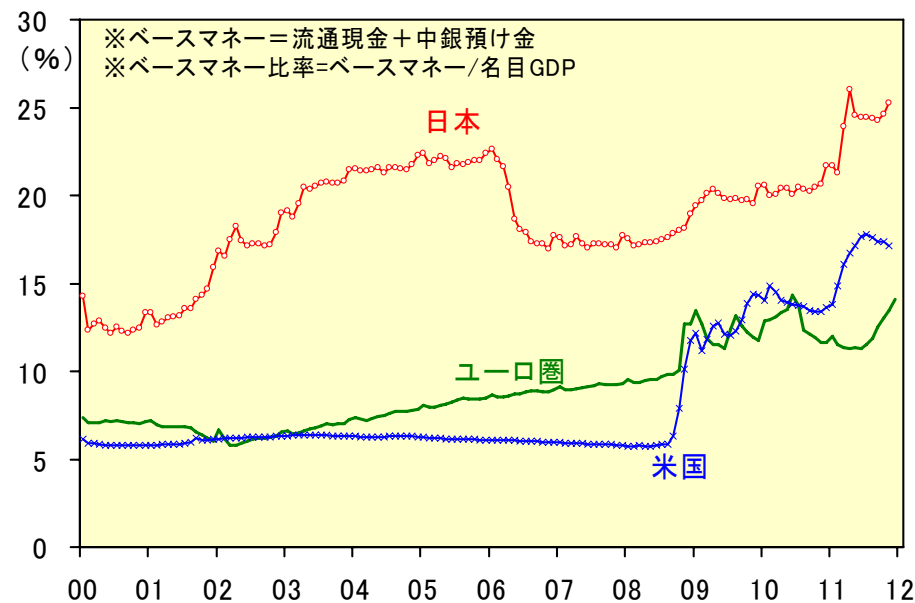
- 11年12月のEU首脳会議では、債務問題の打開に向けた総合対策が合意された(下表参照)。しかし、市場ではこれらの対策の即効性を疑問視する声が聞かれ、更に英国が一部の対策に反対するなどEU各国の足並みの乱れが指摘された。市場は更なる対策が必要と見ている模様である。
- 債務問題は、3月頃が解決に向けた1つのメドになると想定される。市場の注目の1つはECBの役割拡大(国債買い入れ増額、追加金融緩和など)である。ユーロ圏のベースマネー比率は日米に比べて低い。ECBが追加措置に踏み切れば、債務問題の打開に向けた期待が高まる可能性があるだろう。

EU首脳会議で決まった債務問題への総合対策

★EU首脳会議(12/8-9)で決まったこと	
・ 財政規律の強化	
EU加盟国(除く英国)で2012年3月までに新条約を作成。違反国には自動制裁	
・ IMFへの資金拠出	
2000億ユーロの資金をIMFへ拠出(うちユーロ圏各国中銀は1500億円を拠出)	
・ ESM(欧州安定メカニズム)の設立前倒し	
設立時期を2012年7月に1年前倒し。規模は5000億ユーロ。銀行化は見送り。	
★マーケットが期待する主な危機対策	
・ ユーロ共同債の導入	
・ ECBによる国債買い入れの大幅増額	
・ EU域外を含めた国際協調によるIMFの機能強化	

(出所)報道などより大和証券作成

日米欧のベースマネー比率

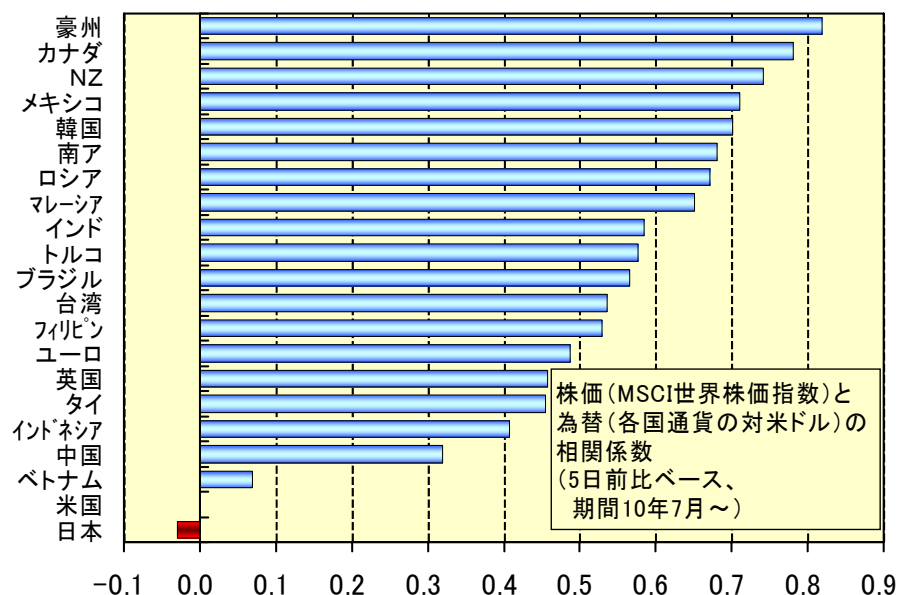


(出所)各国中銀より大和証券作成

今月の注目ポイント③

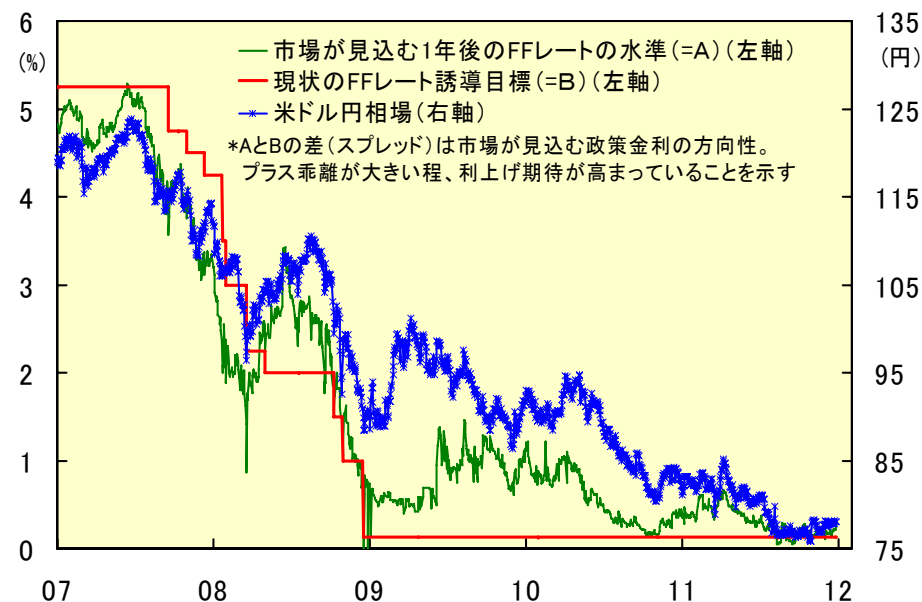
- リスク許容度を測る1つの指標となる株価と、主要通貨(対米ドル)との相関は、豪州やカナダなど資源国ほど高い傾向がある。欧州債務問題への懸念がピークアウトし、投資家のリスク許容度が改善へ向かえば、こうした資源国通貨への上昇期待が高まると考えられる。
- 米ドル円は、リスク許容度よりも日米(短期)金利差の動向に注目。現状、FRBは13年半ばまで低金利政策を維持する方針であり、短期的に米短期金利の上昇は期待し難い。ただ、米景気回復が続けば、政策金利の引き上げ期待を織り込んで米金利が上昇し、円安・ドル高を促すと想定される。

各国通貨(対米ドル)と株価指数の相関係数



(出所)各種資料より大和証券作成

米国政策金利の動向と米ドル円

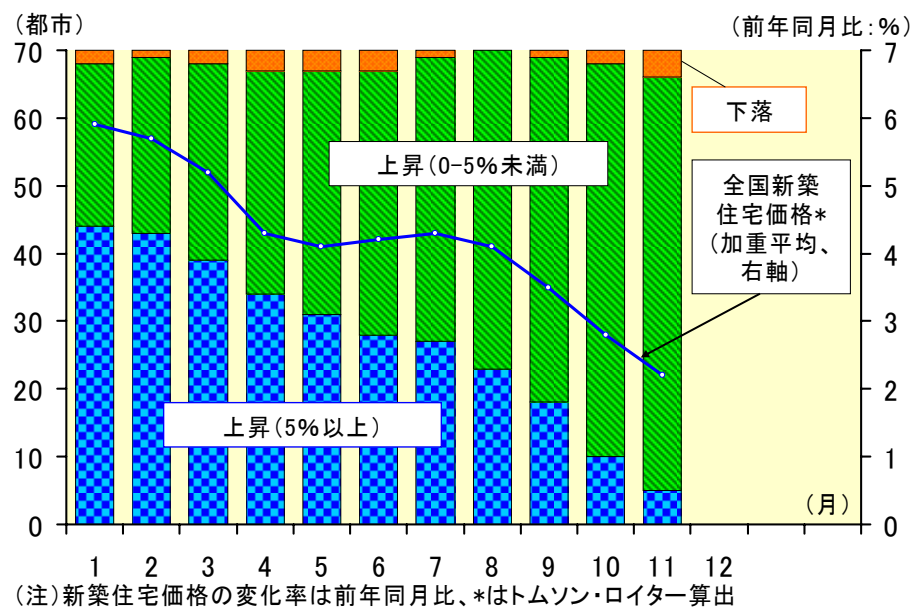


(出所)各種資料より大和証券作成

今月の注目ポイント④

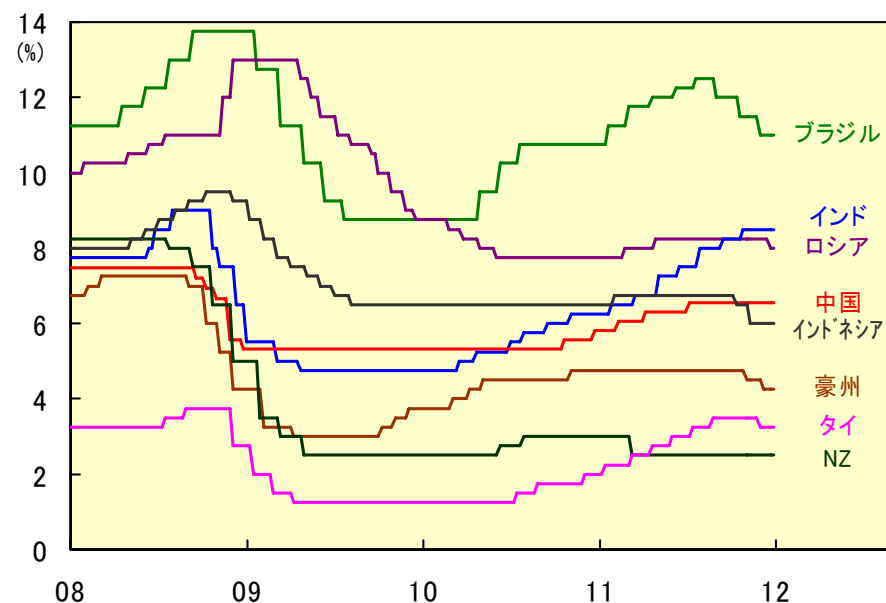
- 足元、中国経済は減速感が強まり、不動産価格についても騰勢が鈍ってきている。11年12月の中央経済工作会议では、12年の経済政策の方針がインフレ抑制から成長促進へシフトする姿勢が鮮明となった。今後、景気減速懸念が強まれば、金融・財政面で対策が打たれる可能性は高い。
- 新興国・資源国では金融政策を“引締め”から“緩和”へ転換する動きが一段と広まっている。景気後退を未然に防ぐための金融緩和は、その国の経済や株式市場、更に通貨にとってもプラスとなる。

中国 新築住宅価格と都市別住宅価格騰落率分布



(出所) 中国国家统计局、トムソン・ロイターより大和証券作成

主な新興国・資源国の政策金利



(出所) 各種資料より大和証券作成

今月の注目ポイント⑤

- 東日本大震災の復興需要が本格化する時期が後ズレしたことや、タイの洪水の影響により、日本企業の業績V字回復期待は後退した。しかし、こうした悪材料は既に織り込まれたと考えられる。
- 12年の日本株は、企業業績の改善期待を織り込んで行く展開になると考えられる。投資家の注目が来期業績へ移り始めるに従って、高い業績が期待される日本株を評価する動きが広まろう。更に、リスク選好が強まれば、PERなどバリュエーションの水準を切り上げていくことも想定される。

主要企業200社(大和200)の企業業績見通し

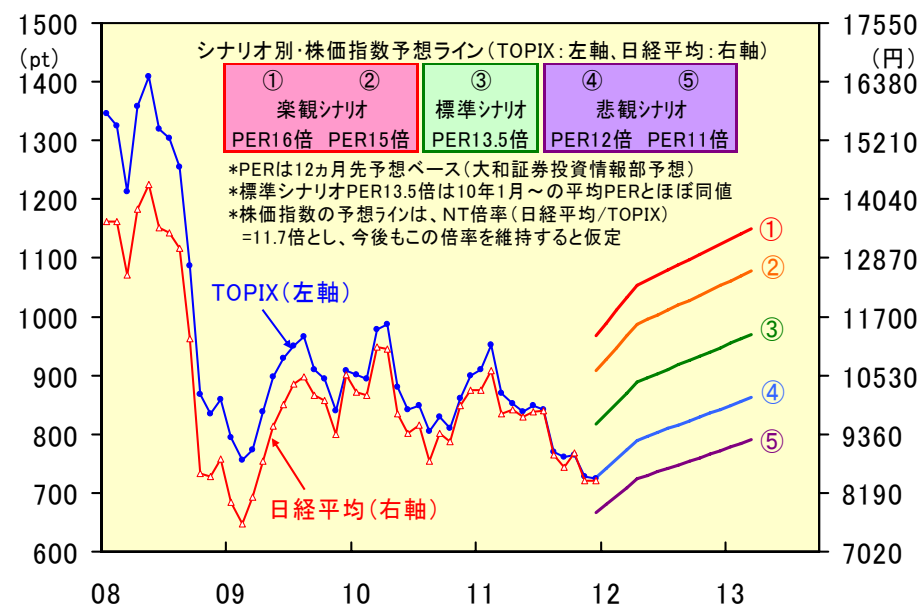
		2010年	2011年	2012年	2011年	2012年
<単位: %>		実績	大和予想		前回予想	
増収率	大和210(金融含む)	5.2	0.1	2.8	1.4	3.6
	大和200(事業会社)	5.5	-0.3	3.1	1.1	4.1
	製造業	7.0	-1.0	3.0	1.1	4.3
	非製造業	2.2	1.4	3.2	1.2	3.7
増益率	大和210(金融含む)	53.9	-5.9	20.1	3.5	18.0
	大和200(事業会社)	60.2	-11.1	23.6	-1.6	22.3
	製造業	97.5	-9.9	27.3	5.2	22.8
	非製造業	25.8	-12.9	18.1	-11.6	21.4

前提条件	為替	円/米ドル	85.7	77.8	76.0	79.6	79.0
		円/ユーロ	113.2	109.8	106.0	113.4	112.0
	実質GDP 成長率 (暦年、%)	日本	2.3	0.5	1.8	0.0	2.6
		米国	3.0	1.8	2.3	1.7	2.5
		欧州	1.7	1.7	0.7	1.8	1.5
		中国	10.3	9.2	8.5	-	-

(注) 増益率は経常増益率、前回予想は9/1時点、今回予想は12/2時点

(出所) 大和証券キャピタルマーケットズより大和証券作成

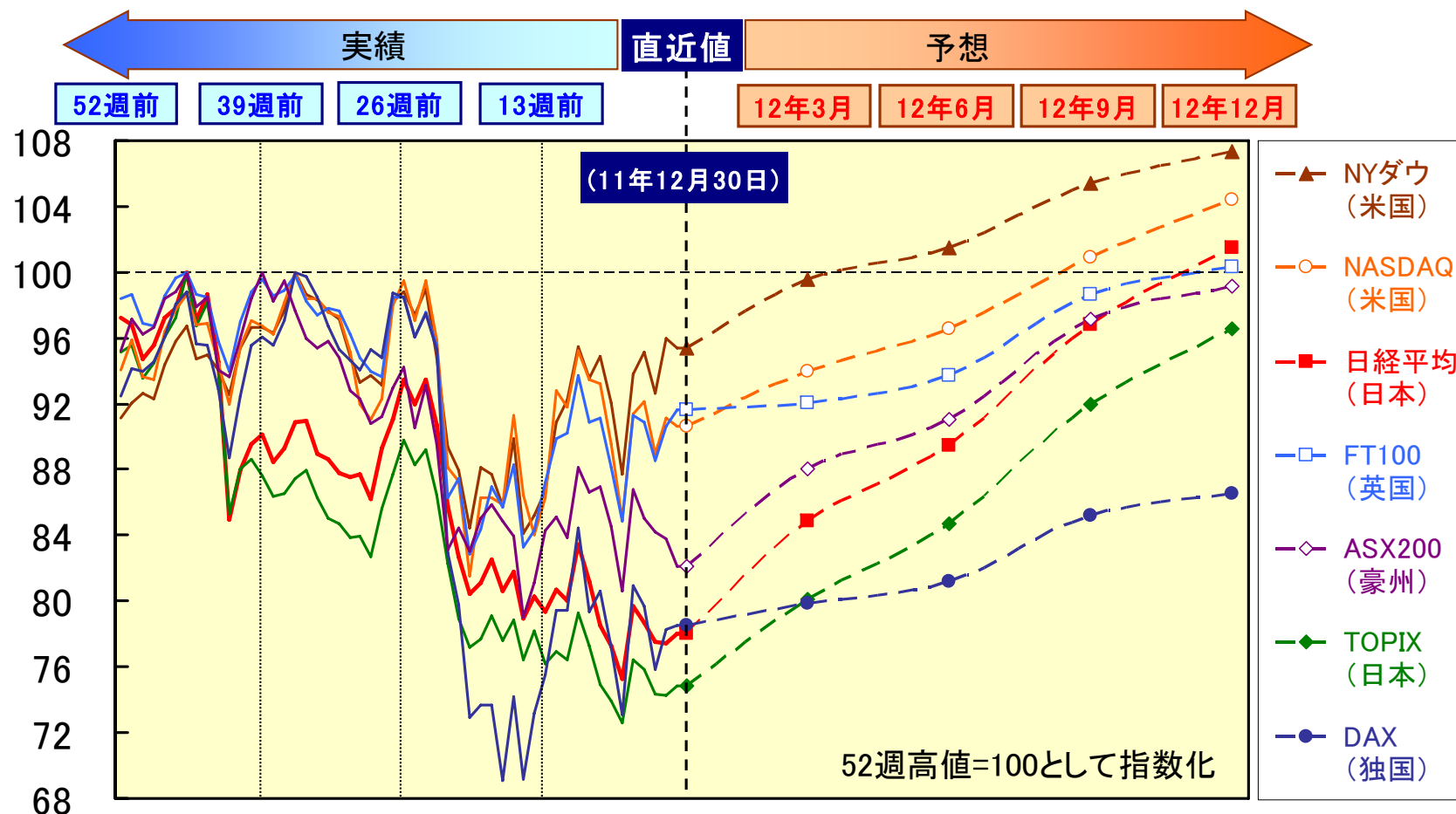
TOPIX・日経平均のシナリオ別株価予想



(出所) 各種資料より大和証券作成

予想騰落率ランキング①(先進国株価)

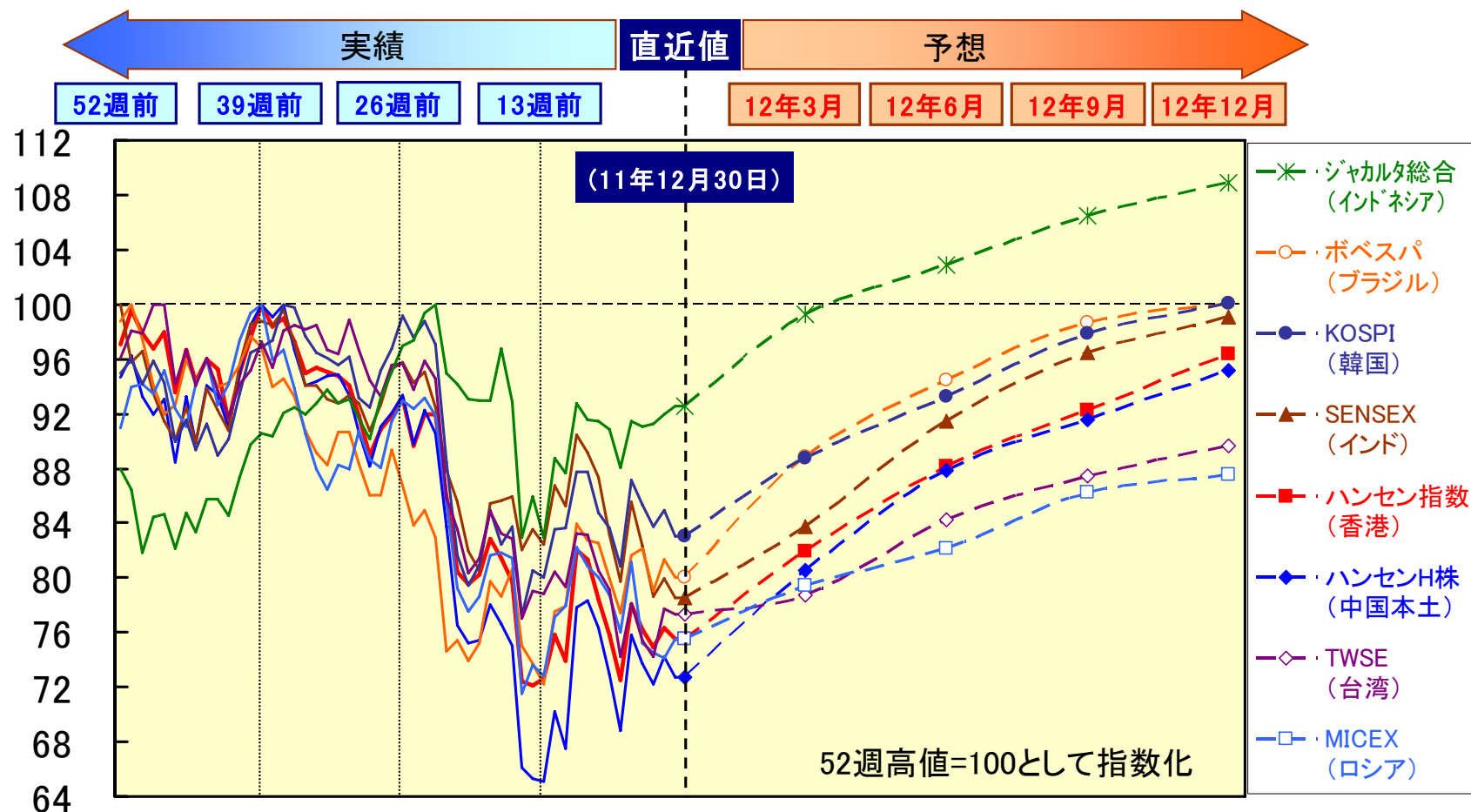
来期業績への注目が高まるにつれて、日本株を再評価する動きが強まろう
米国株は、米景気の回復見合いで緩やかな上昇傾向が想定される



出所: 各種資料 予想は大和証券投資情報部

予想騰落率ランキング② (新興国株価)

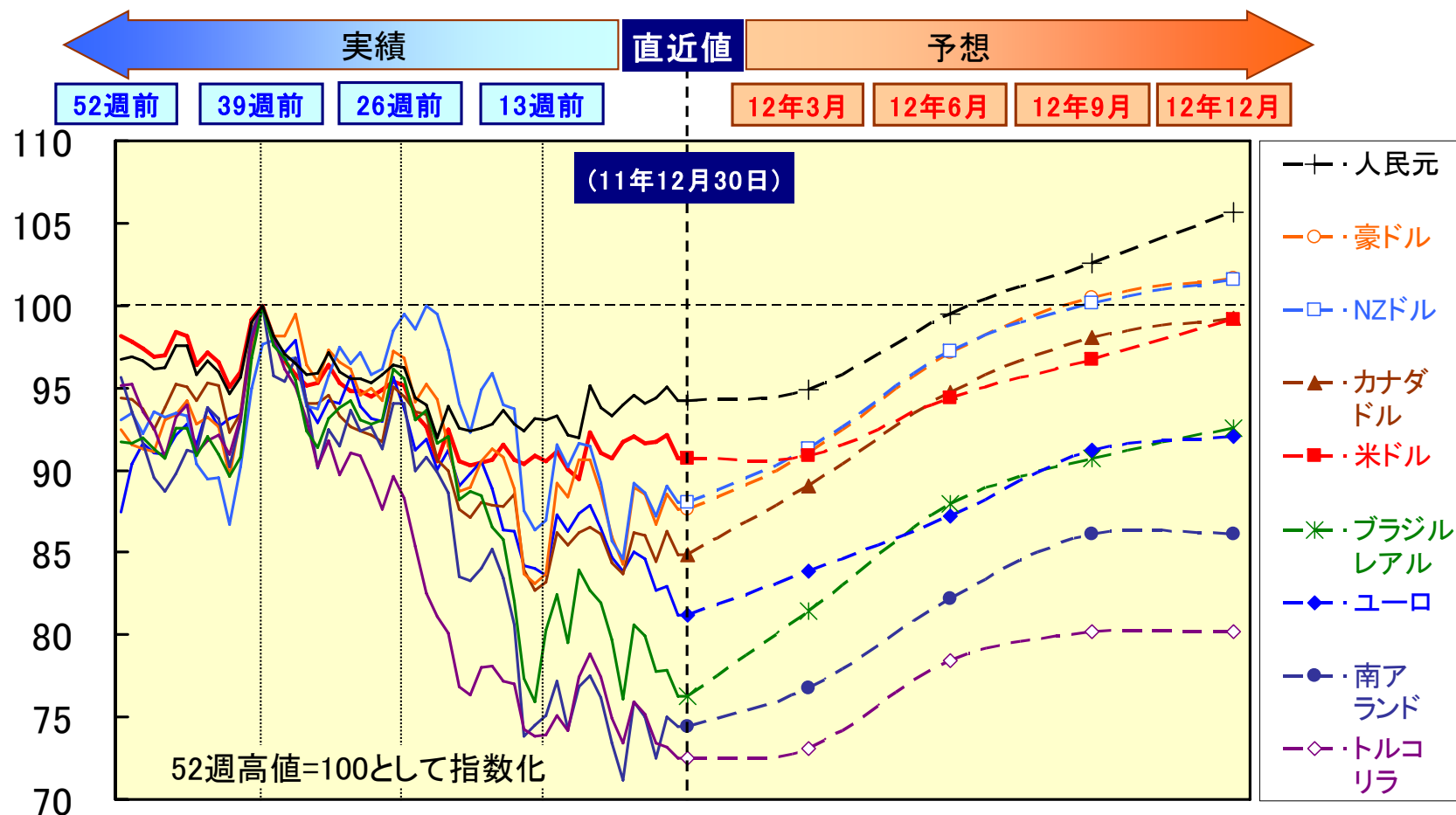
政府の財政・金融面の経済対策期待を手掛かりに、中国株は買い戻しが期待される
高成長、低インフレの経済環境下にあるインドネシア株の魅力は変わらず。ジリ高の展開を想定



出所: 各種資料 予想は大和証券投資情報部

予想騰落率ランキング③ (対円相場)

クロス円は、豪ドルやブラジルレアル、カナダドルなどの資源国通貨を中心にしっかりと展開を想定
米ドル円は12年半ば以降、米短期金利の上昇期待と共に、ドル高・円安が強まろう



出所: 各種資料 予想は大和証券投資情報部

(参考データ) 四半期予想レンジ①

先進国株価指数（日本、米国、欧州など）

		直近値 (12月30日)	→予想				騰落率① (直近値⇒ 12年6月末値)	騰落率② (直近値⇒ 12年12月末値)
			12年 1-3月	12年 4-6月	12年 7-9月	12年 10-12月		
日経平均 (円)	期末値	8,455.35	9,200	9,700	10,500	11,000	+14.7%	+30.1%
	(高値)	-	(10,200)	(10,700)	(11,000)	(11,500)	-	-
	(安値)	-	(8,000)	(8,700)	(9,500)	(10,000)	-	-
TOPIX (pt)	期末値	728.61	780	825	895	940	+13.2%	+29.0%
	(高値)	-	(880)	(925)	(950)	(965)	-	-
	(安値)	-	(675)	(725)	(795)	(840)	-	-
NYダウ (ドル)	期末値	12,217.56	12,750	13,000	13,500	13,750	+6.4%	+12.5%
	(高値)	-	(14,000)	(14,250)	(14,750)	(15,000)	-	-
	(安値)	-	(11,500)	(11,750)	(12,250)	(12,500)	-	-
NASDAQ (pt)	期末値	2,605.15	2,700	2,775	2,900	3,000	+6.5%	+15.2%
	(高値)	-	(2,850)	(2,925)	(3,050)	(3,150)	-	-
	(安値)	-	(2,450)	(2,625)	(2,750)	(2,850)	-	-
FT100 (pt)	期末値	5,572.28	5,600	5,700	6,000	6,100	+2.3%	+9.5%
	(高値)	-	(6,000)	(6,100)	(6,400)	(6,500)	-	-
	(安値)	-	(5,000)	(5,100)	(5,600)	(5,700)	-	-
DAX指数 (pt)	期末値	5,898.35	6,000	6,100	6,400	6,500	+3.4%	+10.2%
	(高値)	-	(6,500)	(6,600)	(6,900)	(7,000)	-	-
	(安値)	-	(5,500)	(5,600)	(5,900)	(6,000)	-	-
豪州 ASX200 (pt)	期末値	4,056.60	4,350	4,500	4,800	4,900	+10.9%	+20.8%
	(高値)	-	(4,750)	(4,900)	(5,200)	(5,300)	-	-
	(安値)	-	(3,850)	(4,100)	(4,400)	(4,500)	-	-

出所: 各種資料 予想は大和証券投資情報部

(参考データ) 四半期予想レンジ②

新興国株価指数

		直近値 (12月30日)	→予想 12年 1-3月	12年 4-6月	12年 7-9月	12年 10-12月	騰落率① (直近値⇒ 12年6月末値)	騰落率② (直近値⇒ 12年12月末値)
香港 ハンセン指数	期末値	18,434	20,000	21,500	22,500	23,500	+16.6%	+27.5%
	(高値)	-	(22,500)	(24,000)	(25,000)	(26,000)	-	-
	(安値)	-	(17,500)	(19,000)	(20,000)	(21,000)	-	-
中国 ハンセンH株指数	期末値	9,936	11,000	12,000	12,500	13,000	+20.8%	+30.8%
	(高値)	-	(12,500)	(13,500)	(14,000)	(14,500)	-	-
	(安値)	-	(9,000)	(10,500)	(11,000)	(11,500)	-	-
インド SENSEX30	期末値	15,455	16,500	18,000	19,000	19,500	+16.5%	+26.2%
	(高値)	-	(18,500)	(20,000)	(21,000)	(21,500)	-	-
	(安値)	-	(14,500)	(16,000)	(17,000)	(17,500)	-	-
ブラジル ボベスパ指数	期末値	56,754	63,000	67,000	70,000	71,000	+18.1%	+25.1%
	(高値)	-	(67,000)	(71,000)	(74,000)	(75,000)	-	-
	(安値)	-	(55,000)	(63,000)	(66,000)	(67,000)	-	-
ロシア MICEX指数	期末値	1,402	1,475	1,525	1,600	1,625	+8.8%	+15.9%
	(高値)	-	(1,625)	(1,675)	(1,750)	(1,775)	-	-
	(安値)	-	(1,265)	(1,375)	(1,450)	(1,475)	-	-
韓国 KOSPI	期末値	1,826	1,950	2,050	2,150	2,200	+12.3%	+20.5%
	(高値)	-	(2,100)	(2,200)	(2,300)	(2,350)	-	-
	(安値)	-	(1,700)	(1,900)	(2,000)	(2,050)	-	-
台湾 TWSE	期末値	7,072	7,200	7,700	8,000	8,200	+8.9%	+15.9%
	(高値)	-	(7,950)	(8,450)	(8,750)	(8,950)	-	-
	(安値)	-	(6,400)	(6,950)	(7,250)	(7,450)	-	-
インドネシア ジャカルタ総合指数	期末値	3,822	4,100	4,250	4,400	4,500	+11.2%	+17.7%
	(高値)	-	(4,600)	(4,750)	(4,900)	(5,000)	-	-
	(安値)	-	(3,500)	(3,750)	(3,900)	(4,000)	-	-

出所:各種資料 予想は大和証券投資情報部

(参考データ) 四半期予想レンジ③

為替相場（対円レート）

		直近値 (12月30日)	→予想				騰落率① (直近値→ 12年6月末値)	騰落率② (直近値→ 12年12月末値)
			12年 1-3月	12年 4-6月	12年 7-9月	12年 10-12月		
米ドル	期末値	76.91	77.00	80.00	82.00	84.00	+4.0%	+9.2%
	(高値)	-	(80.00)	(82.00)	(84.00)	(85.00)	-	-
	(安値)	-	(76.00)	(77.00)	(78.00)	(80.00)	-	-
ユーロ	期末値	99.66	103.00	107.00	112.00	113.00	+7.4%	+13.4%
	(高値)	-	(110.00)	(110.00)	(117.00)	(118.00)	-	-
	(安値)	-	(95.00)	(100.00)	(107.00)	(108.00)	-	-
カナダドル	期末値	75.32	79.00	84.00	87.00	88.00	+11.5%	+16.8%
	(高値)	-	(82.00)	(88.00)	(91.00)	(92.00)	-	-
	(安値)	-	(74.00)	(78.00)	(81.00)	(82.00)	-	-
豪ドル	期末値	78.43	81.50	87.00	90.00	91.00	+10.9%	+16.0%
	(高値)	-	(82.00)	(88.00)	(91.00)	(92.00)	-	-
	(安値)	-	(74.00)	(78.00)	(81.00)	(82.00)	-	-
NZドル	期末値	59.78	62.00	66.00	68.00	69.00	+10.4%	+15.4%
	(高値)	-	(66.00)	(70.00)	(72.00)	(73.00)	-	-
	(安値)	-	(56.00)	(60.00)	(62.00)	(63.00)	-	-
南アランド	期末値	9.50	9.80	10.50	11.00	11.00	+10.5%	+15.7%
	(高値)	-	(10.50)	(11.20)	(11.70)	(11.70)	-	-
	(安値)	-	(9.00)	(9.20)	(9.70)	(9.70)	-	-
トルコリラ	期末値	40.67	41.00	44.00	45.00	45.00	+8.2%	+10.6%
	(高値)	-	(45.00)	(48.00)	(49.00)	(49.00)	-	-
	(安値)	-	(39.00)	(40.00)	(41.00)	(41.00)	-	-
ブラジルレアル	期末値	41.20	44.00	47.50	49.00	50.00	+15.3%	+21.4%
	(高値)	-	(48.00)	(50.00)	(52.00)	(53.00)	-	-
	(安値)	-	(40.00)	(42.00)	(44.00)	(45.00)	-	-
人民元	期末値	12.22	12.30	12.90	13.30	13.70	+5.6%	+12.1%
	(高値)	-	(12.70)	(13.20)	(13.60)	(14.00)	-	-
	(安値)	-	(11.90)	(12.00)	(12.80)	(13.20)	-	-

出所: 各種資料 予想は大和証券投資情報部

お取引にあたっての手数料等およびリスクについて

手数料等およびリスクについて

- 株式等の売買等にあたっては、「ダイワ・コンサルティング」コースの店舗(支店担当者)経由で国内委託取引を行う場合、約定代金に対して最大 1.20750% (但し、最低 2,625 円) の委託手数料(税込)が必要となります。また、外国株式等の外国取引にあたっては、現地諸費用等を別途いただくことがあります。
- 株式等の売買等にあたっては、価格等の変動による損失が生じるおそれがあります。また、外国株式等の売買等にあたっては価格変動のほかに為替相場の変動等による損失が生じるおそれがあります。
- 信用取引を行うにあたっては、売買代金の 30%以上で、かつ 30 万円以上の委託保証金が事前に必要です。信用取引は、少額の委託保証金で多額の取引を行うことができることから、損失の額が差し入れた委託保証金の額を上回るおそれがあります。
- 債券を当社との相対取引によりお買付けいただく場合は、購入対価のみお支払いいただきます。円貨建て債券は、金利水準の変動等により価格が上下し、損失を生じるおそれがあります。外貨建て債券は、金利水準の変動に加え、為替相場の変動等により損失が生じるおそれがあります。また、債券の発行者または元利金の支払いを保証する者の財務状況等の変化、およびそれらに関する外部評価の変化等により、損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託をお取引していただく際に、銘柄ごとに設定された販売手数料および信託報酬等の諸経費、等をご負担いただきます。また、各商品等には価格の変動等による損失を生じるおそれがあります。

ご投資にあたっての留意点

- 取引コースや商品毎に手数料等およびリスクは異なりますので、上場有価証券等書面、契約締結前交付書面、目論見書、等をよくお読みください。
- 外国株式、外国債券の銘柄には、我が国の金融商品取引法に基づく企業内容の開示が行われていないものもあります。

商号等 : 大和証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第108号

加入協会: 日本証券業協会、社団法人日本証券投資顧問業協会、社団法人金融先物取引業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会

当社と大和証券CM株とは、(株)大和証券グループ本社を親会社とする同一のグループ会社であり、かつ大和証券CM株は平成 23 年 1 月以降下記の銘柄に関する募集・売出し(普通社債を除く)にあたり主幹事会社となっております。

日本ドライケミカル(1909) アコーディア・ゴルフ(2131) エス・エム・エス(2175) カルビー(2229) JPホールディングス(2749) 物語コーポレーション(3097) 八洲電機(3153) アイセイ薬局(3170) ハウスコム(3275) ソフトクリエイト(3371) KLab(3656) ポールトゥウィン・ピットクルーホールディングス(3657) イーブックイニシアティブジャパン(3658) テクマトリックス(3762) 日医工(4541) ラクオリア創薬(4579) カイオム・バイオサイエンス(4583) リブセンス(6054) キトー(6409) 第一精工(6640) エルピーダメモリ(6665) アンリツ(6754) フェローテック(6890) 梅の花(7604) りそなホールディングス(8308) イー・ギャランティ(8771) フジ住宅(8860) オリックス不動産投資法人(8954) ビ・ライフ投資法人(8984) スカイマーク(9204) スターフライヤー(9206) (銘柄コード順)